

社会資本整備総合交付金 事後評価シート
遠野まちなか再生地区

平成25年3月

岩手県遠野市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岩手県	市町村名	遠野市	地区名	遠野まちなか再生地区		面積	101ha				
交付期間	平成20年度～平成24年度		事後評価実施時期	平成24年度		交付対象事業費	931百万円	国費率	0.398			
1) 事業の実施状況	事業名											
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(自転車置き場、遠野遺産広場)、高次都市施設(観光交流センター)、高質空間形成施設(屋根付き通路)、既存建造物活用事例(まちなか・ドキ・土器館、まちおこしセンター、地域交流センター)、道路(市道材木町通り線)									
		提案事業	地域創造支援事業(旧伊藤家復元、旧蔵復元、とおの昔話村整備、市立博物館改修)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域生活基盤施設(駐車場整備) 高次都市施設(高架橋整備) 既存建造物活用(子育て世代活動支援センター) 地域創造支援事業(助産院整備事業) 地域創造支援事業(蔵の道ひろば上屋事業、蔵の道ひろば上屋事業) 			削除/追加の理由 <ul style="list-style-type: none"> 事業費増によりJRとの調整が難航したため 事業費増によりJRとの調整が難航したため 既存施設の耐震性確保のため現築となり、当初予定していたスペースの確保が難しくなったため 改修予定施設が所有者の意向により取り壊され、再検討した結果、他の施設での代用が可能となったため 屋根整備による日照不足と景観の問題から周辺住民との合意形成に難航したため 		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 ・指標への影響はない				
		提案事業	なし			-		-				
	新たに追加した事業	基幹事業	既存構造物活用事業(子育て世代活動支援センター)			・既存施設の耐震性確保のため現築となり、当初予定していたスペースの確保が難しくなったため、市役所庁舎の空きスペースを活用し対応することとした		・指標への影響はない				
提案事業		なし			-		-					
交付期間の変更	当初	平成20年度～平成24年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
変更	-		-									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	中心市街地の観光施設等の入込数	人/年	85,354	H18	128,000	H24	98,500	△	あり なし	震災による影響や、「とおの昔話村」のリニューアル工事が未完了であったため、目標値の達成には至らなかったものの、震災からの復興や施設リニューアルにより、今後の観光客は増加するものと予想される。	平成25年度末
	指標2	遠野町家のひなまつり等イベント開催者数	人/年	32,867	H18	50,000	H24	33,700	△	あり なし	震災後の観光客数の低迷や、イベント当日の天候、PR等の不足等様々な要因により、目標値の達成には至らなかったものの、近年の傾向から開催者数は増加傾向にある。	平成25年4月
	指標3	まちおこしセンター相談件数	回/年	894	H18	1,000	H24	1,002	△	あり なし	まちおこしセンターを中心とした経営改善指導や補助制度等の政策等により、関係団体との連携強化が実現し、商店主のまちづくりへの参加意思の向上がみられる。	平成25年4月
	指標4	子育て世代活動支援センターの利用者数	人/年	0	H18	490	H24	706	○	あり なし	子育て世代活動支援センターは多くの市民に利用されており、親子のふれあいや子育て世代間の交流等が促進されている。	-
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	観光交流センター入館者数	人/年	16,052	H22	/	/	24,535	/	/	観光交流センターの入館者数は、リニューアル前よりも増加し、遠野の表玄関に相応しい観光拠点としてその機能を多くの利用者に還元した。	-
	その他の数値指標2	まちおこしセンターを会場としたイベント等の実施回数	回/年	0	H18	/	/	257	/	/	まちおこしセンターを利用したイベントや会議スペース等の利用団体が増加し、市民のまちなかへの来訪機会を増加させるきっかけとして機能している。	-
	その他の数値指標3	遠野市まちなか歩行者通行量	人/日	7,727	H19	/	/	10,264	/	/	遠野市のまちなかを通行する歩行者が増加し、まちなかの賑わいが向上している。	-
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代活動支援センターは、子育てサークルの活動の場としても利用され、認知度も広がりつつある他、子育て世代間の交流を支援する場としても機能している。 まちおこしセンターを中心とした経営改善指導や補助制度等の政策等により、関係団体との連携強化が実現し、商店主のまちづくりへの参加意思の向上がみられる。 											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況						今後の対応方針等		
	モニタリング	遠野市中心市街地活性化協議会における事業計画・実施状況に関する協議、住民説明会等における意見等を計画改善にその都度反映させていたため、モニタリングは実施しなかった。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						協議会の活動記録及び住民説明会の議事録より、事業計画の実施状況や協議内容を確認する。	
	住民参加プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 駅前施設整備に関する説明会の開催 中心市街地活性化を進めるための建築士会との意見交換会の開催 中心市街地活性化関係者懇談会の開催 			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						<ul style="list-style-type: none"> 市街地活性化に向け、イベント等を定期的に開催。 フォーラムやまちづくりの担い手育成講座を継続して開催し、今後もまちづくりに対する市民意識の高揚や人材育成に努める。 	
	持続的なまちづくり体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量調査の実施 ソフト事業進捗状況報告の実施 施設整備に関する状況報告の実施 (いずれも「中心市街地活性化協議会」主導による実施) 			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった						市民による主体的な活動が継続して行われるよう、啓発・研修活動等を支援していく。	

様式2-2 地区の概要

遠野まちなか再生地区(岩手県遠野市) 社会資本整備総合交付金の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
中心市街地の賑わい創出による活性化 ・中心市街地に観光施設を整備・充実し、まちなか観光による交流人口の増加を図る。 ・市内交通の要所である駅前にまちおこしセンターを整備し、商業振興の充実を図る。 ・中心市街地に子育て世代活動支援センターを整備し、若い世代が子供を安心して生み育てることができる環境の充実を図る。		中心市街地の観光施設等の入込み数	単位:人/年	85,354	H18	128,000	H24	98,500	H24
		遠野町家のひなまつり等イベント開催者	単位:人/年	32,867	H18	50,000	H24	33,700	H24
		まちおこしセンター相談件数	単位:人/回	894	H18	1,000	H24	1,002	H24
		子育て世代活動支援センターの利用者数	単位:人/年	0	H18	490	H24	706	H24
まちの課題の変化		<ul style="list-style-type: none"> 観光交流センターやまちおこしセンター、地域交流センター等の整備により、遠野市の玄関口である遠野駅の機能強化が図られた。 旧伊藤家の復元や旧蔵の復元等、伝統的建造物を活かした施設整備によるまちなか観光拠点の整備も進んでおり、観光客の増加、回遊性確保につながっている。震災の影響を受けて一時激減していた観光客も、少しずつ回復を見せている。 市役所内に整備された「子育て世代活動支援センター」は連日多くの利用者がおり、これらの施設整備が、子育て世代が中心市街地へ来訪する機会の拡大につながっている。 							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度冬には、JR釜石線を利用したSL運行が計画されており、観光客の増加が見込まれる。これらに備え観光客を迎える態勢(ボランティアガイドの育成、観光案内の充実)を整える。 店主の高齢化や空き店舗の増加により、衰退するまちなかの商業機能を活性化し、健全な市街地を形成するため、商業活動の補助制度(店舗改修の助成制度や空き店舗利用家賃補助制度等)の拡充を図る。 「子育て世代活動支援センター」を有効活用し、イベントの実施(絵本の読み聞かせ、育児相談会)や利用しやすい環境(日曜日の施設開放)を整える。 							

社会資本整備総合交付金 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	-	-	-
B. 目標を定量化する指標		●	-	-	-
C. 目標値		●	-	-	-
D. その他()		●	-	-	-

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道材木町通り線					事業の変更	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	自転車置場							●	
	遠野遺産ひろば							●	
	駐車場					事業の削除	影響なし		
高質空間形成 施設	屋根付通路					事業の変更	影響なし	●	
高次都市施設	観光交流センター							●	
	高架橋整備					事業の削除	影響なし		
既存建造物活 用事業	まちなか・ドキ・土器館							●	
	まちおこしセンター							●	
	子育て世代活動支援センター					事業の削除	影響なし		
	地域交流センター							●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	蔵の道ひろば上屋					事業の削除	影響なし		
	蔵の道ひろば市上屋					事業の削除	影響なし		
	旧伊藤家復元							●	
	旧蔵復元					事業の変更	影響なし	●	
	とおの昔話村整備					事業の変更	影響なし		●
	助産院整備事業					事業の削除	影響なし		

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
地域住宅交付金		稲荷下第二住宅建設						
地域住宅交付金		穀町住宅建設						
地域住宅交付金		材木町住宅建設						

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価	事後評価	あり	なし			
指標1 中心市街地の観光施設等の入込数	中心市街地観光施設(博物館・とおの昔話村・遠野城下町資料館)の年間(1月～12月)来場者数を集計	人/年	-	85,354	18年度	128,000	24年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●		
								事後評価	確定 見込み ●	98,500	事後評価	△			
指標2 遠野町家のひなまつり等イベント記帳者数	2月下旬から3月上旬に市街地の町家を利用して行われる「遠野町家のひなまつり」における芳名帳の記帳者数を集計	人/年	-	32,867	18年度	50,000	24年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-		●	
								事後評価	確定 見込み ●	33,700	事後評価	△			
指標3 まちおこしセンター相談件数	商工団体が行う経営改善普及指導への年間相談件数(4月～翌年3月)を集計	回/年	-	-	894	18年度	1,000	24年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	●	
									事後評価	確定 見込み ●	1,002	事後評価	△		
指標4 子育て世代活動支援センターの利用者数	子育て世代活動センターの利用者数(保護者)を集計	人/年	-	0	18年度	490	24年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-			
								事後評価	確定 見込み ●	706	事後評価	○			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	震災による影響や、「とおの昔話村」のリニューアル工事が未完了であったため、目標値の達成には至らなかったものの、震災からの復興や施設リニューアルにより、今後の観光客は増加するものと予想される。	・評価値は目標値を下回る結果となったが、これは震災による影響が大きいためと思われる。 ・また、「とおの昔話村」のリニューアル工事が震災により、未だ完了していないことも、目標値を下回る要因となっている。
指標2	震災後の観光客数の低迷や、イベント当日の天候、PR等の不足等様々な要因により、目標値の達成には至らなかったものの、近年の傾向から記帳者数は増加傾向にある。	・評価値は目標値を下回る結果となったが、近年の傾向より、改善しているものと思われる。
指標3	まちおこしセンターを中心とした経営改善指導や補助制度等の政策等により、関係団体との連携強化が実現し、店主のまちづくりへの参加意思の向上がみられる。	・まちおこしセンターを中心とした経営改善指導や補助制度等の政策により、関係団体との連携強化を実現。 ・平成25年3月上旬に商工会へのヒアリングにより今回の評価値(見込み値)を得たが、極めて目標値に近い値であったことから、目標達成度を「△」とした。
指標4	子育て世代活動支援センターは多くの市民に利用されており、親子のふれあいや子育て世代間の交流等が促進されている。	・市役所庁内に設けられた当センターは、子育て中の母親等に利用されており、親子のふれあいや、お互いの交流を図るなど、利用者数が増加している。 ・子育てサークルの活動場所として利用されており、認知度も広がりを見せ、利用者からの評価も高い。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
 ※2 目標達成度の記入方法
 ○: 評価値が目標値を上回った場合
 △: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
 ×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)	
				基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1	観光交流センター入館者数	人	観光交流センターの売り上げ額と客単価から、入館者を集計	-	16,052	22年度	モニタリング		観光交流センターは、遠野市の玄関口である遠野駅前立地し、まちなか観光の拠点施設として、多くの集客が見込まれることから、まちなかの賑わいを示す指標として設定	指標1を補完
							事後評価	●		
その他の数値指標2	まちおこしセンターを会場としたイベント等の実施回数	回	まちおこしセンターを会場としたイベント等の実施回数	-	0	18年度	モニタリング		まちおこしセンターは、市民・一般の方が利用可能なイベントスペース、会議室を備えており、これらを利用したイベント等の実施により多くの集客が見込まれることから、まちなかの賑わいを示す指標として設定	指標3を補完
							事後評価	●		
その他の数値指標3	遠野市まちなか歩行者通行量	人	遠野市街地における9月の平日1日・休日1日の歩行者通行量	-	7,727	19年度	モニタリング		まちなかを通行する歩行者数が、まちなかの賑わいを示す指標として設定	指標1・2を補完
							事後評価	●		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・子育て世代活動支援センターは、子育てサークルの活動の場としても利用され、認知度も広がりがつつある他、子育て世代間の交流を支援する場としても機能している。
- ・まちおこしセンターを中心とした経営改善指導や補助制度等の政策等により、関係団体との連携強化が実現し、店主のまちづくりへの参加意思の向上がみられる。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
交付金の交付期間中に、事業の進捗状況や成果の発現状況を把握して、その後の事業の進め方に資するために市町村が任意で行う点検作業	予定通り実施した	遠野市中心市街地活性化協議会における事業計画・実施状況に関する協議、住民説明会等における意見等を計画改善にその都度反映させていたため、モニタリングは実施しなかった。	協議会の活動記録及び住民説明会の議事録より、事業計画の実施状況や協議内容を確認する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
駅前施設整備に関する説明会の開催	予定通り実施した	【開催時期】平成21年6月16日 ・交付金事業に関する説明 ・駅前施設整備事業に関する説明 ⇒実施内容や時期に関する説明会を一般市民を対象に実施	・市街地活性化に向け、イベント等を定期的に開催する。 ・フォーラムやまちづくりの担い手育成講座を継続して開催し、今後もまちづくりに対する市民意識の高揚や人材育成に努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		
中心市街地活性化を進めるための建築士会との意見交換会の開催	予定通り実施した	【開催時期】平成21年7月10日 ・交付金事業に関する説明 ・中心市街地活性化に係る事業の説明 ・中心市街地活性化に向けての意見収集 ⇒中心市街地活性化を進めるにあたって建築士会との意見交換会を開催	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		
中心市街地活性化関係者懇談会の開催	予定通り実施した	【開催時期】平成22年10月25日 ・交付金事業に関する説明 ・中心市街地活性化に係る事業の説明 ・中心市街地活性化に向けての意見収集 ⇒中心市街地活性化を進めるにあたって関係者と懇談会を開催	
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
歩行者交通量調査の実施	予定通り実施した	【開催時期】平成22年10月6日 ・歩行者調査報告 ⇒市街地の通行量を調査し、街全体で状況を把握した。	中心市街地活性化協議会	市民による主体的な活動が継続して行われるよう、啓発・研修活動等を支援していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			
ソフト事業進捗状況報告の実施	予定通り実施した	【開催時期】平成22年10月6日 ソフト事業の進捗状況報告 ⇒現在実施されているソフト事業を紹介し、これからの広域展開につなげた。	中心市街地活性化協議会	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			
施設整備に関する状況報告の実施 (いずれも「中心市街地活性化協議会」主導による実施)	予定通り実施した	【開催時期】平成24年3月2日 施設整備に関する状況報告 ⇒現在の施設整備状況を報告し、事業の周知から利用促進につなげた。	中心市街地活性化協議会	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
社会資本整備総合交付金事後評価庁内検討会	関係各課実務担当職員 ○商工観光課 ○文化課 ○都市計画課 ○子育て支援室	平成25年2月19日	遠野市産業振興部 商工観光課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		指標2		指標3		指標4		その他の数値指標1		その他の数値指標2		その他の数値指標3								
指標名		中心市街地の観光施設等の入込数		遠野町家のひなまつり等イベント記者数		まちおこしセンター相談件数		子育て世代活動支援センターの利用者数		観光交流センター入館者数		まちおこしセンターを会場としたイベント等の実施回数		遠野市まちなか歩行者通行量								
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見							
基幹事業	【道路】市道材木町通り線	-	・評価値は目標値を下回る結果となったが、これは震災による影響が大きいためと思われる。 ・また、「とおの昔話村」のリニューアル工事が震災の影響を受け、未だ完了していないことも、目標値を下回る要因となっている。	-	・評価値は目標値を下回る結果となったが、近年の傾向より、改善しているものと思われる。	-	・まちおこしセンターを中心とした経営改善指導や補助制度等の政策により、関係団体との連携強化を実現。	-	・市役所庁内に設けられた子育て世代活動支援センターは、子育て中の母親等に利用されており、親子のふれあいや、お互いの交流を図るなど、利用が増加している。	-	・観光交流センターの入館者数が増加し、遠野市の観光拠点としての機能を多くの利用者に還元。	-	・まちおこしセンターを利用したイベントや、会議スペース等の利用団体が増加。 ・市民のまちなかへの来訪機会が増加。	-	・まちなかの歩行者数が増加。観光交流施設やまちおこしセンター等の利用者や、歩きやすくなった歩道など、事業実施により、来街者の増加があったものと予想される。							
	【地域生活基盤施設】自転車置場	-		-		-		-		-		-		-		-	-	-	-			
	【地域生活基盤施設】遠野遺産ひろば	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○		
	【高質空間形成施設】屋根付通路	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	
	【高次都市施設】観光交流センター	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○
	【既存建造物活用事業】まちなか・ドキ・土器館	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○
提案事業	【既存建造物活用事業】まちおこしセンター	-	・商店主のまちづくりへの参加意思の向上がみられる。	-	◎	-	◎	-	◎	-	◎	-	◎	-	◎							
	【既存建造物活用事業】地域交流センター	-		-		-		-		-		-		-		-	-	-	-	-		
	【既存建造物活用事業】子育て世代活動支援センター	-		-		-		-		-		-		-		-	-	-	-	-	-	-
	【地域創造支援事業】旧伊藤家復元	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○
関連事業	【地域創造支援事業】旧蔵復元	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△	○	△							
	【地域創造支援事業】とおの昔話村整備	△		△		△		△		△		△		△		△	△	△	△	△		
	【地域創造支援事業】市立博物館改修	○		○		○		○		○		○		○		○	○	○	○	○	○	○
	【地域住宅交付金】稲荷下第二住宅建設	-		-		-		-		-		-		-		-	-	-	-	-	-	-
関連事業	【地域住宅交付金】穀町住宅建設	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
	【地域住宅交付金】材木町住宅建設	-		-		-		-		-		-		-		-	-	-	-	-	-	-

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
-：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	指標1	指標2	指標3	指標4	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3
・広報（ホームページでのPR、観光パンフレットの作成）を充実させる。 ・施設内容の充実、観光ボランティアガイドの育成（来訪者の満足度向上）を図る。	・定期的なイベントや、家主への情報提供を行い、商店街の魅力を維持・向上させる。 ・観光客の意見を積極的に取り入れ、より良い観光資源の整備に努める。	・まちづくり活動の積極的な支援（行政アドバイス、会議室貸出等）を実施する。 ・地域住民、商店街の交流を促すイベント実施を検討する。	・幅広い年代の子供たちが混在してもみんながゆったり遊べるよう、再整備を図る。 ・就労と子育ての両立を支援する施策を検討する。	・観光情報内容の充実を図る。 ・駅前という立地条件を活かし、施設を利用したイベント実施を検討する。	・利用促進のため市民への周知、広報活動を行う。 ・パソコンやプロジェクター等のOA機器の貸し出しを行う。 ・会場設営の代行等を行う。	・道路や施設の維持管理体制の構築を行う。 ・施設の有効活用方法を検討する。	

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3			指標4			指標〇		
指標名		秋田駅東口の通行量			土地利用の利便性の向上					
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	【道路】市道材木町通り線									
	【地域生活基盤施設】自転車置場									
	【地域生活基盤施設】遠野遺産ひろば									
	【高質空間形成施設】屋根付通路									
	【高次都市施設】観光交流センター									
	【既存建造物活用事業】まちなか・ドキ・土器館									
提案事業	【既存建造物活用事業】まちおこしセンター									
	【既存建造物活用事業】地域交流センター									
	【地域創造支援事業】旧伊藤家復元									
	【地域創造支援事業】旧蔵復元									
関連事業	【地域創造支援事業】とおの昔話村整備									
	【地域創造支援事業】市立博物館改修									
	【地域住宅交付金】稲荷下第二住宅建設									
	【地域住宅交付金】穀町住宅建設									
	【地域住宅交付金】材木町住宅建設									

※目標未達成への影響度

××：事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の直接的な原因となった。

×：事業が効果を発揮せず、

指標の目標未達成の間接的な原因となった。

△：数値目標が達成できなかった中でも、

ある程度の効果をあげたと思われる。

一：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。

分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。

分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
社会資本整備総合交付金事後評価庁内検討会	関係各課実務担当職員 ○商工観光課 ○文化課 ○都市計画課 ○子育て支援室	平成25年2月19日	遠野市産業振興部 商工観光課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
中心市街地に観光客を集める 魅力づくり	・情報発信の拠点となる観光交流センターの整備や観光資源(旧伊藤家復元、とおの昔話村)を整備。 ・既存建造物を活用し、まちおこしセンター、地域交流センターを整備。 ・レンタサイクル整備や歩道空間(屋根付き通路)の整備により、観光客の回遊性を確保	・とおの昔話村が震災の影響による工事の遅れから未完成状態。 (平成25年4月のグランドオープン予定)	—
中心市街地の商店街の魅力向上	・まちおこしセンター、地域交流センターを駅前集約。 ・関係団体の連携を強化。	・引き続き、効率的な事業推進に努めるとともに、地域商店街との対話を一層密にし、空き店舗の積極的利用推進等の改善を図る必要がある。	—
子育て支援による若者のまちなか回帰	・子育て世代活動支援センター「元気！わらすっこセンター」を市役所内に併設。 ・子育てに関する相談窓口や各種情報提供など、若者が子育てしやすい環境の整備、支援を実施。 ・子育て支援をきっかけに、中心市街地への来訪機会を拡大。	・就労と子育ての両立を支援するため、市街地における十分な保育環境の整備やファミリー・サポート体制の構築、マンパワーの確保が課題。	利用者の増加に対応したスペースの確保(利用者の増加により、現在のスペースでは手狭になっている。)

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	観光資源を活用したまちづくりの拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・JR観光企画(JR釜石線のSL運行)との連携 ・観光資源の効果的な広報 ・リピーターの増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR釜石線を利用したSL運行に合わせた商品開発 ・観光ボランティアガイドの育成 ・HPやリーフレット、市内案内板など、観光案内の充実
	健全な市街地形成	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の活性化 ・空き店舗の再利用 ・景観に配慮したまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設のメンテナンス ・店舗改修時(外観考慮)の助成制度 ・空き店舗利用家賃補助制度等
	子育て支援活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性の向上 ・利用機会の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日の施設開放 ・子育てボランティアと連携した読み聞かせや育児相談会の開催等

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 <ul style="list-style-type: none"> ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策 	<ul style="list-style-type: none"> ・とおの昔話村の事業推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度のオープンに向けて、引き続き事業を進める。 ・当該事業周辺の施設や周辺商店街全体を巻き込み、オープンに向けたイベントの企画や商品開発等を行い、中心市街地全体が連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント企画 ・商品開発 ・市民、商店街説明会の開催等
	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の魅力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗の利用を促進し、商業面からも活気あふれる市街地の形成を目指す。 ・景観に配慮したまちづくりを進め、歴史・文化の調和がとれた美しい街並みの形成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗改修時(外観考慮)の助成制度 ・空き店舗利用家賃補助制度等
	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地における保育環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地における保育環境を充実させ、保護者の就労と子育ての両立を支援する制度の構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日の施設開放 ・イベント等の開催 ・スキルアップ講習の開催等

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	中心市街地の観光施設等の入込数	人/年	85,354	H18	128,000	H24	確定 ●	98,500	△	あり ●	→	平成25年度末	中心市街地観光施設(博物館・とおの昔話村・遠野城下町資料館)の年間(1月~12月)来場者数を集計	-
指標2	遠野町家のひなまつり等イベント記帳者数	人/年	32,867	H18	50,000	H24	確定 ●	33,700	△	あり ●	→	平成25年4月	2月下旬から3月上旬に市街地の町家を利用して行われる「遠野町家のひなまつり」における芳名帳の記帳者数を集計	平成24年度の実測値を確認
指標3	まちおこしセンター相談件数	回/年	894	H18	1,000	H24	確定 ●	1,002	△	あり ●	→	平成25年4月	商工団体が行う経営改善普及指導への年間相談件数(4月~翌年3月)を集計	平成24年度の実測値を確認
指標4	子育て世代活動支援センターの利用者数	人/年	0	H18	490	H24	確定 ●	706	○	あり ●	→	-	-	-
その他の数値指標1	観光交流センター入館者数	人/年	16,052	H22	/	/	確定 ●	24,535	/	/	→	-	-	-
その他の数値指標2	まちおこしセンターを会場としたイベント等の実施回数	回/年	0	H18	/	/	確定 ●	257	/	/	→	-	-	-
その他の数値指標3	遠野市まちなか歩行者通行量	人/日	7,727	H19	/	/	確定 ●	10,264	/	/	→	-	-	-

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・今回未完了だった事業の開業効果や、震災からの復興が進み、現状が回復していくことが今後十分に見込めることから、これらの指標のフォローアップを確実に実施することが必要である。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・観光入込数の計測について、とおの昔話村の完了時期が予定よりも遅れたため、評価時点での効果の適切な把握ができなかった。 ・震災の影響による入込数の落ち込みがあった。 ・目標値設定において、達成レベルをどの程度にするかが難しい。 	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効果的、効率的な広報が必要である。 ・事業を積極的にPRし、市民の事業への関心を高めていく必要がある。
	うまくいかなかった点	<ul style="list-style-type: none"> ・完了事業の市民への広報が足りなかった。 	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	<ul style="list-style-type: none"> ・市が定期的を実施している交通量調査により、中心市街地の交通量や歩行者自転車交通量の経年変化を的確に把握することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的を実施している調査結果を指標とすることは事業効果を把握する上で有効である。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画(社会資本整備総合交付金)の活用予定
現時点では予定なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	ホームページへの概要掲載 事後評価(原案)・整備計画・方法書のダウンロード対応	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日(予定)	1ヶ月	メール、手紙、口頭による聞き取り等	産業振興部 商工観光課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	課窓口閲覧	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日(予定)	1ヶ月		

住民の意見	(今後公開予定)				
-------	----------	--	--	--	--

(6) 社会資本整備総合交付金評価委員会の審議

添付様式8 社会資本整備総合交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	南 正昭 岩手大学工学部 社会環境工学科教授	平成25年3月15日	遠野市産業振興部 商工観光課	遠野市社会資本整備総合交付金評価委員会設置要綱	既存組織(都市計画審議委員、岩手県建築士会)の委員の中から独自に委嘱
その他の委員	都市計画審議委員 松田 和子(欠席)・山賀 洋子 岩手県建築士会 菊池 公明				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・中心市街地観光施設の入り込数や町家のひなまつり記帳者について、目標値に届いていない状況であるが、震災からの復興期であり、発災直後の激減からは改善傾向にあることや、「とおの昔話村」が未完成なことが要因であることを説明し了解を得た。
	実施過程の評価	・特になし。
	効果発現要因の整理	・子育て世代活動支援センターの整備は利用者も多く、整備内容や施設を高く評価できる。 ・まちおこしセンターを利用したイベント回数も多く、市民のまちなかへの来訪機会を提供する、効果的な整備であったといえる。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし。
	その他	・来年度以降、SL運行等の企画と連携し、更なる観光客の誘致、観光対策を実施して欲しいという意見があった。 ・今回実施した事業を積極的に市民に周知して欲しいという意見があった。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・まちづくりセンターの利用方法等、今後は事業の周知・PRを強化するべきとの意見があった。 ・商店街との連携を図り、まちなか商業機能の強化にも積極的に取り組んで欲しい、支援制度も積極的に周知して欲しいとの意見があった。 ・子育て世代活動支援センター利用者の意見を取り入れ、継続的にこの取り組みを実施して欲しいとの意見があった。
	フォローアップ	・観光客の入込数は、震災の影響や未完了だった「とおの昔話村」リニューアル後の影響を考慮し、今後も継続してモニタリングが必要との意見があった。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。